資料1

「川島町環境基本計画」に基づく
令和7年度施策の進捗状況について
（年度末見込み）

～これは「雑紙（ざつがみ）として処分できます～

施策取組状況確認シート	
基本方針	1　自然環境の保全
対象分野	1　自然景観（農地）
環境保全の目標	自然景観の形成により田園景観を適正に保全する。
行政の施策	①田園環境の保全と農業の活用 ②自然環境の保全・創出に向けた広報・PR
取組事業名	①-1　多面的機能支払交付金事業 ①-2　農地集積事業（農地中間管理事業）
計画期間	①毎年度実施
成果指標	①-1　組織数 ①-2　農地中間管理事業を活用した農地集約・集積面積
R7目標値	①-1　新規活動組織を2組織増やす（8組織から10組織に増やす） ①-2　農地中間管理事業を活用した農地集積面積　累計800ヘクタール(実施計画目標値)
R7実績値 （年度末見込み）	①-1　8組織 ①-2　農地中間管理事業を活用した農地集積面積　累計842ヘクタール
R8目標値	①-1　新規活動組織を2組織増やす ①-2　農地中間管理事業を活用した農地集積面積　累計845ヘクタール
最終目標値	①-1　各年度に2組織成立。 ①-2　農地中間管理事業を活用した農地集積面積　累計1350ヘクタール（優良農地1500ヘクタール×90%）
実施・進捗状況評価	①-1　×：大幅に遅れている ①-2　○：概ね実施・進行している。
目標達成状況（%） R7実績値（年度末見込み）／R7目標値	①-1　0/2＝0% ①-2　842/800＝105%
目標達成度評価	①-1　△：目標を下回った（目標に対し80%未満） ①-2　◎：目標以上に達成した
課　題	①-1　地区への説明会開催。地区で事業を推進するリーダーの発掘。事務が煩雑 ①-2　未相続農地、制度が活用できない農地（狭小、陸田、遊休農地等）の存在 ①-2　解約が多く、農地集約面積の数値が増えなくなってきている
担当課	農政産業課

施策取組状況確認シート	
基本方針	1　自然環境の保全
対象分野	1　自然景観（農地）
環境保全の目標	自然景観の形成により、田園景観を適正に保全する。
行政の施策	①　田園環境の保全と農業の活用 ②　自然景観の保全・創出に向けた広報・PR
取組事業名	②　桜づつみ及び、川の広場・さくら通りの保守管理
計画期間	②　通年（随時実施）
成果指標	②　釘無地内堤防上の桜堤及び、川の広場・さくら通りの適正管理回数
R7目標値	②　4回（業務委託による管理を実施）
R7実績値 （年度末見込み）	②　4回（業務委託による管理を実施）
R8目標値	②　4回（業務委託による管理を実施）
最終目標値	②　4回（業務委託による管理を実施）
実施・進捗状況評価	◎：順調に実施・進行している。
目標達成状況（%） R7実績値（年度末見込み）／R7目標値	100%
目標達成度評価	◎：目標以上に達成した（100%以上を達成）
課　題	②　業務委託による管理を実施しているが、対象地が広範囲に及び、除草作業回数も限りがある。年間を通した管理が困難である。
担当課	まち整備課まちづくり・空き家対策室

施策取組状況確認シート	
基本方針	1　自然環境の保全
対象分野	1　自然景観
環境保全の目標	自然景観の形成により、田園景観を適正に保全する。
行政の施策	①　田園環境の保全と農業の活用 ②　自然景観の保全・創出に向けた広報PR
取組事業名	①　学校給食センターの運営事業（地元産食材の利用拡大）
計画期間	①　毎年度実施（通年実施）
成果指標	①地元産食材の使用割合 ※「米」については、川島町産米 ※「いちじく」及び「いちご」に関しては、旬の時季における給食提供には、全量町内産を使用する。その他の食材については、指標として定めることが困難。
R7目標値	①　町内産米「川越藩のお蔵米　彩のきずな」の使用100% ②　町内産いちじく及びいちごの使用100%
R7実績値 （年度末見込み）	①　米・いちじく・いちごについては、100% ②　人参・大根・ねぎ・じゃがいも・きゅうり・その他野菜（23品目）についても、地元生産者から、JA農産物直売所、さまちか、民間の農産直売所を通じて使用した。 ③　必要量を予算範囲内で仕入れ可能な数量を使用した。
R8目標値	①　米・いちじく・いちごについては、100% ②　①以外に使用できる地場産農産物の品目及び使用割合を増やす（目標値の設定にはなじまない）
最終目標値	①　米・いちじく・いちごについては、100% ②　①以外の食材については、生産数量が僅少のため、品目や使用の検討が必要。（目標値の設定にはなじまない）
実施・進捗状況評価	◎：順調に実施・進行している。
目標達成状況（%） R7実績値（年度末見込み）／R7目標値	①　米・いちじく・いちごについては、100% ②　①以外の食材については、生産数量が僅少のため、品目や使用の検討が必要。（目標値の設定にはなじまない）
目標達成度評価	◎：目標以上に達成した（100%以上を達成）
課　題	本町の野菜の作付面積が限られるため、品目や収穫量が少なく、安定した必要量を確保できないことがある。そのため、米以外の地場産食材の使用率を伸ばすことが困難な状況にある。
担当課	教育総務課（給食グループ）

施策取組状況確認シート	
基本方針	1自然環境の保全
対象分野	2河川、水辺
環境保全の目標	水辺空間を保全・回復し、身近な自然としての利用を推進する。
行政の施策	① 水辺空間の保全の推進 ② 水辺空間の利用の推進
取組事業名	② 平成の森公園内に整備された水辺空間の管理
計画期間	② 通年（随時実施）
成果指標	② 平成の森公園内の「修景池」「ショウブ園」の景観を維持するために適切な維持管理を実施。
R7目標値	② 14回（業務委託による管理を実施）
R7実績値 （年度末見込み）	② 12回（業務委託による管理を実施）
R8目標値	② 12回（業務委託による管理を実施※管理内容の見直しに伴い回数減）
最終目標値	② 適正な維持管理を継続し、身近な自然環境、水辺空間の活用促進を目指す。
実施・進捗状況評価	○：概ね実施・進行している。
目標達成状況（%） R7実績値（年度末見込み）／R7目標値	85.70%
目標達成度評価	○：概ね達成した（目標に対して80%以上100%未満を達成）
課　題	② 修景池の植物（古代蓮）が増殖し過ぎたため、景観を損ねている。適正な管理が課題である。 公園内の貯水池としての機能も有しているが、堆積した土砂の撤去等にあたり高額な費用が生じることが課題である。
担当課	まち整備課まちづくり・空き家対策推進室

施策取組状況確認シート	
基本方針	1　自然環境の保全
対象分野	3　動植物、生態系
環境保全の目標	本来の生態系を回復し、貴重な生態系を未来に伝える。
行政の施策	②外来生物対策の推進
取組事業名	②-1　川島町鳥獣被害防止計画 ②-2　埼玉県アライグマ防除実施計画に基づく、防除の実施 ②-3　スクミリンゴガイ・ナガエツルノゲイトウの駆除
計画期間	②-1　(令和6～令和8年)川島町鳥獣被害防止計画策定済み ②-2、3　毎年度実施
成果指標	②-2　アライグマ捕獲頭数(埼玉県アライグマ防除実施計画に従い、捕獲・個体データ収集を実施し、計画外の鳥獣等は、随時捕獲等を実施する。)
R7目標値	②-1　川島町鳥獣被害防止計画に基づき進める ②-2　埼玉県アライグマ防除実施計画に基づく防除(捕獲・個体データ収集) ②-3　臨機応変に対応できる範囲で対応
R7実績値 (年度末見込み)	②-2　アライグマ　600頭　それ以外40頭の防除(捕獲・個体データ収集等)数 ②-3　スクミリンゴガイ(約45kg分)を駆除
R8目標値	②-2　アライグマ　600頭　それ以外40頭の防除(捕獲・個体データ収集等)数 ②-3　発生を確認次第、駆除を実施
最終目標値	②-2　最終的な目標は、アライグマの完全排除。(埼玉県アライグマ防除実施計画) (当面の目標は農業、生活環境等の被害を抑制する。) ②-3　スクミリンゴガイ・ナガエツルノゲイトウによる被害がなくなるまで
実施・進捗状況評価	ー:評価に馴染まない(数値目標に馴染まない等)
目標達成状況(%) R7実績値(年度末見込み)／R7目標値	②-1　農作物の被害報告を受けていない為、評価に馴染まない。 ②-2　捕獲数(アライグマ150%、それ以外40%) ②-3　目標値がないため、数値化できない。
目標達成度評価	ー:評価に馴染まない(数値目標に馴染まない等)
課　題	②-2　捕獲頭数について、増加の一途を辿っており、一自治体レベルでの対応ではキリがない状況である。県下一斉での駆除等が必要であると考える。新たな外来生物が増えているので、増加する前に迅速な駆除を実施する必要がある。 ②-3　特にナガエツルノゲイトウについては、上流から流れ着くと発生につながってしまうため、県下一斉もしくは河川の上流からの駆除など広域での駆除対応が必要。また、根からの駆除が必要なため、重機を用いての作業が必要な場合がある。
担当課	農政産業課

施策取組状況確認シート	
基本方針	1　自然環境の保全
対象分野	3　動植物、生態系
環境保全の目標	本来の生態系を回復し、貴重な生態系を未来に伝える。
行政の施策	①　生物生息空間の確保 ②　外来生物対策の推進
取組事業名	①　ハンノキプロジェクト(つばさ小学校) ②「荒川の草花を育てようプロジェクト」(つばさ小学校)
計画期間	①－1　荒川で減少しているハンノキ林とハンノキに依存する生き物の保存計画(国土交通省との連携事業により毎年度実施)。 ①－2「三ツ又沼ビオトープ」の環境保全(国土交通省との連携事業により毎年度実施)。 ②－1　荒川に生息する草花を育てるため、荒川の草花の苗を育て、種の収穫を通じて環境について学ぶ。 ②－2「国土交通省との連携事業により、令和元年(平成31年度)より実施。
成果指標	①－1、①－2、②－1、②－2　毎年、子どもたち(児童)に自分たちを取り巻く環境への関心を高める機会を持つことができたか。
R7目標値	①－1、①－2、②－1、②－2　国土交通省との連携事業として実施しており、総合学習の一環として実施。
R7実績値 (年度末見込み)	国土交通省との連携事業として実施しており、総合学習の一環として実施。
R8目標値	①－1、①－2、②－1、②－2　国土交通省との連携事業として実施しており、総合学習の一環として実施。
最終目標値	①－1、①－2、②－1、②－2　国土交通省との連携事業として実施しており、総合学習の一環として、継続的に実施していく。
実施・進捗状況評価	○:概ね実施・進行している。
目標達成状況(%) R7実績値(年度末見込み)／R7目標値	①－1、①－2、②－1、②－2　国土交通省との連携事業として実施し、総合学習の一環として、継続的に実施した。
目標達成度評価	○:概ね達成した(目標に対して80%以上100%未満を達成)
課　題	「荒川ハンノキプロジェクト」「荒川の草花を育てようプロジェクト」の認知度向上と現地までの交通手段等が課題である。
担当課	教育総務課(学校教育グループ・つばさ小学校)

施策取組状況確認シート	
基本方針	1　自然環境の保全
対象分野	3　動植物、生態系
環境保全の目標	本来の生態系を回復し、貴重な生態系を未来に伝える。
行政の施策	① 生物生息空間の確保 ② 外来生物対策の推進 ③ 生物多様性施策の推進
取組事業名	①・②・③荒川太郎右衛門自然再生協議会と連携した事業実施。特定外来生物の防除や取扱いに関する情報周知。 （一般財団法人セブン－イレブン記念財団、荒川太郎右衛門地区自然再生協議会、国土交通省関東地方整備局荒川上流河川事務所、川島町の4者で、「埼玉セブンの森」事業の連携に関する協定あり（締結はR4.11.9、R7以降も延長予定）。自然再生地「中池」エリアを活動対象に、自然環境の保全・整備、次世代に引き継いでいくこと目的としている。
計画期間	通年
成果指標	① ②　普及・啓発のための、広報、啓発回数。 ③
R7目標値	① ②　普及・啓発として、町広報、HP、チラシの等による周知 6回／年。 ③
R7実績値 （年度末見込み）	4回／年 ・町広報誌 6月号（オオキンケイギクは駆除しましょう） ・イベント周知（5月：魚・昆虫の観察、外来植物除草。9月：維持管理作業・ガイドツアー。2月：除草作業。場所：太郎右衛門自然再生地・中池、主催：荒川太郎右衛門自然再生協議会）
R8目標値	6回／年
最終目標値	・継続的な広報、啓発に努め、町民の「環境保全対策の推進」への満足度3.42以上を目標とする（2024年8月第6次川島町総合振興計画のための町民アンケート調査結果の最高点・なお、現状は3.09）。
実施・進捗状況評価	○：概ね実施・進行している。
目標達成状況（%） R7実績値（年度末見込み）／R7目標値	66%（4回/6回）
目標達成度評価	△：目標を下回った（目標に対し80%未満）
課　題	・荒川太郎右衛門自然再生協議会と連携した事業をはじめ、生物多様性、外来生物対策への理解を広める普及・啓発は広報、イベント周知等により実施しているが、「環境保全対策の推進」への満足度に直接つながる取組ができているか判別しづらい。引き続き、広報・啓発は継続していくが、より有効な取組の研究を続けていく必要がある。
担当課	町民生活課（生活環境グループ）

施策取組状況確認シート	
基本方針	1　自然環境の保全
対象分野	4　自然とのふれあい
環境保全の目標	自然とのふれあいの推進により、自然環境保全に向けた意識を高める。
行政の施策	①自然とふれあえる場の整備 ②自然とふれあう機会の充実
取組事業名	①地域子ども教室（1箇所で実施） ②自然体験教室
計画期間	①平成18年度から実施中 ②平成26年度から実施中
成果指標	①各地区の体験活動における環境学習の導入件数 ②事業の実施及び参加者数
R7目標値	①「自然体験、環境学習」を主題とした活動を実施する。 実施例：「川の博物館見学」（つばさっ子くらぶ） ②「環境学習」を主題とした講座を実施する。
R7実績値 （年度末見込み）	①「川の博物館見学」（つばさっ子くらぶ）を実施した。 ②「夜の林探検」、「それゆけ荒川探検隊」（生涯学習講座）を実施（参加者数：計36名）
R8目標値	①いずれかの教室において1回以上の自然体験、環境を考える教室を実施する。 ②「環境学習」を主題とした講座を実施し、参加者数を増やす。 （生涯学習講座：20名）
最終目標値	①いずれかの教室において「自然体験、環境学習」を主題とした活動を年間1回程度実施する。 ②講座参加者数20名を目標とする。（生涯学習講座）
実施・進捗状況評価	◎：順調に実施・進行している。
目標達成状況（%） R7実績値（年度末見込み）／R7目標値	①100%／100% ②100%／100%
目標達成度評価	◎：目標以上に達成した（100%以上を達成）
課　題	①今後も当該活動を増やしていくとともに、既存の活動の中で環境問題にふれることができるように工夫したい。 ②天候によって実施が左右される。自然環境の保全という趣旨だけでは参加者の興味・関心を得ることが難しい。自身が住んでいる地元の自然環境に興味を持たせる工夫が必要である。
担当課	生涯学習課

施策取組状況確認シート	
基本方針	2　生活環境の保全
対象分野	1　大気環境
環境保全の目標	大気質の監視を継続し、大気汚染の未然防止に努める。
行政の施策	①　大気環境への負荷の軽減 ②　大気環境の監視と保全意識の高揚
取組事業名	①－1　町環境保全条例に基づくアイドリングストップの推進 ①－2　東松山環境管理事務所と連携した事業者への指導・立入確認 ②　　大気環境（埼玉県ダイオキシン類大気常時監視結果の監視、野外焼却原則禁止の周知・指導
計画期間	①－1　通年 ①－2　通年 ②　　通年
成果指標	①－1　駐車場（アイドリング）関連の苦情件数 ①－2　立入件数 ②　　環境基準の達成状況、野外焼却の原則禁止に関する町広報によるPR周知回数
R7目標値	①－1　0件 ①－2　0件 ②　　100%・1回／年
R7実績値 （年度末見込み）	①－1　0件 ①－2　0件 ②　　100%・1回／年　※町広報誌11月号（STOP野焼き）
R8目標値	①－1　0件 ①－2　0件 ②　　1回／年
最終目標値	①－1　0件 ①－2　0件 ②　　100%　1回／年
実施・進捗状況評価	○：概ね実施・進行している。
目標達成状況（%） R7実績値（年度末見込み）／R7目標値	①機会なし ②100%　1回／1回
目標達成度評価	○：概ね達成した（目標に対して80%以上100%未満を達成）
課　題	・アイドリングストップを利用者へ周知しなければならない駐車場の規模として、自動車の収容能力が二十台又は面積が五百平方メートルとするとあるが、規程どおりに周知看板が設置してあっても、大型車両が多く駐車する場所では、周知看板が目立たない場合があるが、どう指導してよいか判断がしづらい。また、冷凍車等が必要な荷物の積み降ろしをする施設（冷凍食品等を扱う事業所、配送センターなど）の設置者は、アイドリング抑制のために外部電源設備を設置するよう努めなくてはならないが、事業者の費用負担が大きいため、思うように進んでいない現状がある。
担当課	町民生活課（生活環境グループ）

施策取組状況確認シート	
基本方針	2　生活環境の保全
対象分野	1　大気環境
環境保全の目標	大気質の監視を継続し、大気汚染の未然防止に努めます。
行政の施策	②大気環境の監視と保全意識の高揚
取組事業名	①施設から排出される排ガス等（ばい煙測定）環境調査
計画期間	焼却施設が稼動を停止するまで毎年実施
成果指標	国が定める基準値（規制値未満）の達成率
R7目標値	各項目の規制基準の達成
R7実績値 （年度末見込み）	下記の計量項目に対し、調査を実施をしたところ国が定めている排出基準値を全て下回る結果となった。 ばいじん濃度、全硫黄酸化物量、窒素酸化物濃度、塩化水素濃度、全水銀濃度
R8目標値	各項目の規制基準の達成
最終目標値	焼却施設の停止まで、各項目の規制基準の達成
実施・進捗状況評価	◎：順調に実施・進行している。
目標達成状況（%） R7実績値（年度末見込み）／R7目標値	100%（予定した検査回数、測定値は基準未満）
目標達成度評価	○：概ね達成した（目標に対して80%以上100%未満を達成）
課　題	施設の経年劣化により、排ガス規制機能などの能力が低下してきていることから、施設のメンテナンスが重要となる。
担当課	町民生活課（施設管理グループ）

施策取組状況確認シート	
基本方針	2　生活環境の保全
対象分野	2　水環境
環境保全の目標	四方を河川に囲まれた美しい水辺環境を守るため、生活排水の適正処理と水質の監視により、より良い水環境を創出する。
行政の施策	① 適正な排水対策の推進 ② 水質の監視と保全意識の高揚
取組事業名	①－1　小型合併処理浄化槽設置の普及 ①－2　小型合併処理浄化槽の適切な維持管理 ②－1　比企河川合同水質調査 ②－2　水質への負荷削減に向けた広報・啓発、情報提供。
計画期間	①－1　通年 ①－2　通年 ②－1　令和7年6月3日～令和8年2月24日 ②－2　通年
成果指標	①－2　法定検査受検率 ①－1 ②－1 ②－2　河川水質の環境基準（BOD：生物化学的酸素要求量）達成率 （※町内7カ所（①越辺川（中山用水樋管）②市野川（神明用水取水口 ③安藤川起点 ④安藤川中間点 ⑤安藤川（町営墓地北側）⑥横塚川樋管 ⑦梅ノ木・古凍貯水池） 2回／年
R7目標値	①－2　法定検査受検率63.4% ①－1 ②－1 ②－2　71．4%（※ 基準達成　10地点／14地点）
R7実績値 （年度末見込み）	①－2　法定検査受検率61.3%　（年度末見込み） ①－1 ②－1 ②－2　64．3%（※ 基準達成　9地点／14地点）
R8目標値	①－2　法定検査受検率63.4% ①－1 ②－1 ②－2　71．4%（※ 基準達成　10地点／14地点）
最終目標値 （最終的に何が（目標値）どうなれば達成か）	①－2　法定検査受検率63.4% ①－1 ②－1 ②－2　85．0%（※ 基準達成　12地点／14地点）
実施・進捗状況評価	○：概ね実施・進行している。
目標達成状況（%） R7実績値（年度末見込み）／R7目標値	①96．3%　56．8%／59．0% ②90．1%　64．3%／71．4%
目標達成度評価	○：概ね達成した（目標に対して80%以上100%未満を達成）
課　題	・水質汚濁の原因の一つとして生活排水の汚れが考えられる。特に単独浄化槽については、トイレ以外の生活排水が未処理のまま流れてしまうため、合併浄化浄化槽への転換が水質汚濁防止に効果的である。ただし、単独浄化槽は既に水洗化されていること、また、補助金を活用しても、自己負担が発生してしまうなど、転換への動機付けが弱く、思うように転換が進まないため、引き続き、法定検査受検率を上昇させることを目指していく。
担当課	町民生活課（生活環境グループ）

施策取組状況確認シート	
基本方針	2生活環境の保全
対象分野	2水環境
環境保全の目標	四方を河川に囲まれた美しい水辺環境を守るため、生活排水の適正処理と水質の監視により、より良い水環境を創出する。
行政の施策	① 適正な排水対策の推進 ② 水質の監視と保全意識の高揚
取組事業名	① 雨水排水処理の指導
計画期間	① 通年（随時実施）
成果指標	① 開発等相談時における雨水排水処理基準の指導率
R7目標値	① 100%
R7実績値 （年度末見込み）	① 100%
R8目標値	① 100%
最終目標値	① 100%
実施・進捗状況評価	◎：順調に実施・進行している。
目標達成状況（%） R7実績値（年度末見込み）／R7目標値	100%
目標達成度評価	◎：目標以上に達成した（100%以上を達成）
課　題	① 市街化区域内の一定規模以下の開発行為で、開発事前相談がない場合には、雨水排水処理基準についての行政指導が行えないケースが生じている。
担当課	まち整備課まちづくり・空き家対策室

施策取組状況確認シート	
基本方針	2 生活環境の保全
対象分野	2 水環境
環境保全の目標	四方を河川に囲まれた美しい水辺環境を守るため、生活排水の適正処理と水質の監視により、より良い水環境を創出する。
行政の施策	①適切な排水対策の推進 ②水質の監視と保全意識の高揚
取組事業名	①下水道未接続世帯への下水道接続推進
計画期間	①随時
成果指標	①　　下水道接続推進 ②－1 町公共下水道から流域関連公共下水道へ流入する下水道の水質調査 ②－2 特定事業所(7事業所)の排水水質調査
R7目標値	①下水道接続率 98.4%
R7実績値 (年度末見込み)	①下水道接続率 98.3%
R8目標値	①下水道接続率 98.5%
最終目標値	①下水道接続率 100%
実施・進捗状況評価	○:概ね実施・進行している。
目標達成状況(%) R7実績値(年度末見込み)／R7目標値	99.90%
目標達成度評価	○:概ね達成した(目標に対して80%以上100%未満を達成)
課　題	下水道接続の意義については理解していただいているが、高齢者世帯や経済的な理由から接続が困難な世帯があり、全ての世帯の接続に至っていない。
担当課	上下水道課 下水道グループ

施策取組状況確認シート	
基本方針	2　生活環境の保全
対象分野	3　騒音・振動
環境保全の目標	騒音公害等の少ない、静かで落ち着いた環境を守る。
行政の施策	①　騒音・振動対策の推進 ②　公害苦情の適正処理
取組事業名	①　事業者に対して、法や県条例に基づく指導、遵守の徹底 ②　公害に関する苦情への速やかな対応及び発生減への指導
計画期間	①　通年 ②　通年
成果指標	②　苦情件数
R7目標値	②　苦情件数　3件以内（工場からの騒音・振動）
R7実績値 （年度末見込み）	②　苦情件数　0件（工場からの騒音・振動）
R8目標値	②　苦情件数　2件以内（工場からの騒音・振動）
最終目標値	②　苦情件数　0件（工場からの騒音・振動）
実施・進捗状況評価	◎：順調に実施・進行している。
目標達成状況（%） R7実績値（年度末見込み）／R7目標値	②　100%
目標達成度評価	◎：目標以上に達成した（100%以上を達成）
課　題	①、②　苦情については状況等が様々で、毎回慎重な対応が求められる。
担当課	町民生活課（生活環境G）

施策取組状況確認シート	
基本方針	2　生活環境の保全
対象分野	4　その他公害防止
環境保全の目標	公害の未然防止により、良好な生活環境を確保します。
行政の施策	②その他公害防止に向けた取組の実践
取組事業名	②放射性物質測定検査（焼却灰・飛灰）
計画期間	焼却施設が稼動を停止するまで毎年実施
成果指標	国が定める基準値（規制値未満）の達成率
R7目標値	規制値未満の数値
R7実績値 （年度末見込み）	下記の計量項目に対し、調査を実施をしたところ国が定めている排出基準値を全て下回る結果となった。 放射性ヨウ素、放射性セシウム
R8目標値	各項目の規制基準の達成
最終目標値	焼却施設の停止まで、規制値未満の数値を継続させる。
実施・進捗状況評価	◎：順調に実施・進行している。
目標達成状況（%） R7実績値（年度末見込み）／R7目標値	100%（予定した検査回数、測定値は基準未満）
目標達成度評価	○：概ね達成した（目標に対して80%以上100%未満を達成）
課　題	放射性物質測定検査については、東日本大震災以降、継続的な測定を実施しているが、基準値を大幅に下回る結果が続いている。今後も下回る結果が予想されるため、測定廃止も考える必要はあるが、焼却灰・飛灰については、リサイクル処理として熊谷市内のリサイクル工場へ持ち込みしている中で、熊谷市から各自治体、一部事務組合に測定依頼があるため、町単独の判断で測定廃止を決めることは困難。
担当課	町民生活課（施設管理グループ）

施策取組状況確認シート	
基本方針	3快適環境の保全
対象分野	1公園・緑地
環境保全の目標	公園・緑地の適正管理や景観の創出により、好適な地域環境を形成する。
行政の施策	① 公園・緑地の適正な整備と維持・管理 ② 良好な景観の形成・創出
取組事業名	①－１ 公園、緑地の適正な維持管理 ①－２ 鳥羽井沼周辺公園化事業の推進（整備） ② 違反屋外広告物の監視強化
計画期間	①－１ 通年（随時実施） ①－２ 整備完了まで ② 通年（随時実施）
成果指標	①－１ 定期的な改修修繕等の実施や、大規模な整備については、計画的に実施し、緊急性の高いものについては早急な対応を実施。 ①－２ 鳥羽井沼周辺施設の民間運営による活用 ② 定期的に禁止地域をパトルールし、違反指導を実施。
R7目標値	①－１ 定期的な改修修繕等を実施・検討していく。 ①－２ 鳥羽井沼周辺施設の民間運営による活用開始 ② 改善率50%（屋外広告物禁止地域の違反が改善された割合）
R7実績値 （年度末見込み）	①－１ 定期的な改修修繕等を実施・検討していく。 ①－２ 鳥羽井沼周辺施設の民間運営による活用開始（政策推進課） ② 改善率48．8%(20/41件）
R8目標値	①－１ 目標設定になじまない ①－２ 鳥羽井沼周辺施設の民間運営による活用開始（政策推進課） ② 改善率58%
最終目標値	①－１ 目標設定になじまない ①－２ 令和7年度末（鳥羽井沼周辺施設の供用開始） ② 改善率65%
実施・進捗状況評価	◎：順調に実施・進行している。
目標達成状況（%） R7実績値（年度末見込み）／R7目標値	100%
目標達成度評価	◎：目標以上に達成した（100%以上を達成）
課　題	①－１ 施設の老朽化が著しい。施設の更新または長寿命化の検討が必要である。
担当課	まち整備課まちづくり・空き家対策室

施策取組状況確認シート	
基本方針	3　快適環境の保全
対象分野	2　歴史・文化
環境保全の目標	地域の特徴や個性を活かしながら、後世に残すよう努める。
行政の施策	文化財の保護
取組事業名	①文化財の保存事業 ②文化財の調査事業 ③文化財に対する意識向上事業
計画期間	継続的に実施する。
成果指標	①文化財の保存・活用に関する事業を実施する。 ②町内の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等の開発行為に対して、埋蔵文化財の有無を確認するため、試掘調査を実施する。 ③かわじま郷土資料展示室を活用して、郷土の歴史・人物・自然環境などに関する講座を実施する。
R7目標値	①年2回の防災設備の点検を実施する。 ②包蔵地に係る埋蔵文化財について、開発予定地が該当する場合は、試掘を実施する。 ③郷土資料展示室の資料を活用して、郷土の歴史・人物・自然環境などに関する講座を実施する。
R7実績値 （年度末見込み）	①国指定重要文化財広徳寺大御堂の防災設備保守点検事業を9月に1回目を実施、2月に2回目を実施する予定である。 ②1月26日に埋蔵文化財包蔵地における土木工事等の開発行為に対して、試掘調査を実施。 ③10月11日にかわじま郷土資料展示室講座「川島の地形散策ー太古の川を渡るー」を開催。
R8目標値	①年2回の防災設備の点検を実施する。 ②包蔵地に係る埋蔵文化財について、開発予定地が該当する場合は、試掘を実施する。 ③郷土資料展示室の資料を活用して、郷土の歴史・人物・自然環境などに関する講座を実施する。
最終目標値	①指定文化財の保護及び伝統芸能の保存に補助金を交付する。 ②包蔵地に係る埋蔵文化財について、開発予定地が該当する場合は、試掘を実施する。 ③郷土の歴史・人物・自然環境などに関する講座を年間1回程度実施する。
実施・進捗状況評価	◎：順調に実施・進行している。
目標達成状況（%） R7実績値（年度末見込み）／R7目標値	①100%／100% ②100%／100% ③100%／100%
目標達成度評価	◎：目標以上に達成した（100%以上を達成）
課　題	歴史・自然・地理など、川島町の環境に係るの特徴を知ることのできる講座を継続的に実施し、参加者の興味・関心を得るための工夫が必要である。
担当課	生涯学習課

施策取組状況確認シート	
基本方針	3　快適環境の保全
対象分野	3　廃棄物・リサイクル
環境保全の目標	適正なごみ処理事業を継続し、環境への負荷の削減に努めます。
行政の施策	①ごみの減量化の推進 ②リサイクルと適正処理の推進
取組事業名	①小中学生を対象としたごみ処理施設見学や体験学習の継続実施 ②事業系ごみの減量に向けた搬入車両に対する搬入物検査の実施 ③庁舎内から排出される紙ごみの分別徹底による再資源化の実施 ④資源ごみの回収推進に向けて、集団回収への補助金の交付を継続実施
計画期間	継続的に実施する
成果指標	事業の実施及び参加者数
R7目標値	年間を通じて事業実施の有無、施設見学は受け入れ人数150人
R7実績値 （年度末見込み）	取組事業においては全て実施 施設見学の受入人数は151人
R8目標値	年間を通じて事業実施の有無、施設見学は受け入れ人数150人
最終目標値	数値上の目標は事業が多岐にわたることから、環境への負荷軽減に努めごみの減量化、リサイクルと適正処理の推進を継続的に実施していく
実施・進捗状況評価	◎：順調に実施・進行している。
目標達成状況（%） R7実績値（年度末見込み）／R7目標値	100%（予定した取組事業は実施）
目標達成度評価	○：概ね達成した（目標に対して80%以上100%未満を達成）
課　題	ごみの減量化やリサイクル、適正処理の推進は継続的に実施いくことで最終的に成果、評価になると考える。
担当課	町民生活課（施設管理グループ）

施策取組状況確認シート	
基本方針	3 快適環境の保全
対象分野	4 環境美化、不法投棄対策
環境保全の目標	ごみの散乱や不法投棄のない清潔な地域環境の創出に努める。
行政の施策	① 美化活動の推進 ② 不法投棄対策の充実・強化
取組事業名	①－1 美化運動の実施 ①－2 野外焼却原則禁止の周知・指導 ②－1 シルバー人材センターによる町内巡視パトロール ②－2 空き地の適正管理(雑草等) ②－3 不法投棄監視カメラの設置 ②－4 不法投棄ごみ回収・処分費補助金
計画期間	①－1 年3回 ①－2 通年 ②－1 月間計画表に基づき実施 ②－2 通年 ②－3 通年 ②－4 通年
成果指標	①－1 美化運動に参加する町民の割合(総人口比) ①－2 野外焼却の原則禁止に関するPR周知回数 ②－1 ②－2 ②－3 ②－4 } 不法投棄件数
R7目標値	①－1 21．2% (美化運動に参加する町民の割合(総人口比)) ②－2 1回／年 ②－1 ②－2 ②－3 ②－4 } 3件以内 (産業廃物などの悪質・多量の事案)
R7実績値 (年度末見込み)	①－1 24．0% (美化運動に参加する町民の割合(総人口比)) 内訳:6月(23.1%:4,300人／18,573人)10月(16.9%:3,139人／18,529人) 2月(%:人／18,459人) ①－2 1回／年 ※町広報誌11月号(STOP野焼き) ②－1 ②－2 ②－3 ②－4 } 不法投棄件数 2件 (産業廃物などの悪質・多量の事案)
R8目標値	①－1 21．2% (美化運動に参加する町民の割合(総人口比)) ②－2 1回／年 ②－1 ②－2 ②－3 ②－4 } } 3件以内 (産業廃物などの悪質・多量の事案)
最終目標値	①－1 25．0%(美化運動に参加する町民の割合(総人口比)) ①－2 1回／年 ②－1 ②－2 ②－3 ②－4 } 3件以内 (産業廃物などの悪質・多量の事案)
実施・進捗状況評価	◎:順調に実施・進行している。
目標達成状況(%) R7実績値(年度末見込み)／R7目標値	100%
目標達成度評価	○:概ね達成した(目標に対して80%以上100%未満を達成)
課 題	・美化運動の参加者は高齢者が多く、年々人員の確保が困難との声がある。一斉に実施する地域活動は重要だが、個々で行うごみ拾いなども支援できるよう考えていく必要あり。 ・野外焼却の禁止については、広く知られるようになっているが、依然として、年間数件の苦情が発生しており、禁止されていることを知らない方もいるため、引き続き周知、啓発を行う必要がある。 ・不法投棄については、ポイ捨てから産業廃棄物系(解体廃材・コンクリートガラ)など千差万別で、多量・悪質性の高い事案については年、数件程度あるかないかとなっている。不法投棄については、「しない」、「させない」、「許さない」環境づくりが重要なため、啓発看板の設置、シルバー人材センターによる巡視などで不法投棄しにくい環境づくりに努めていく必要がある。不法投棄ごみ回収・処分費補助金交付要綱・川島町不法投棄監視カメラ設置等に関する要綱(R5.1.16制定)等活用し、引き続き不法投棄の防止を図っていく。
担当課	町民生活課(生活環境グループ)

施策取組状況確認シート	
基本方針	4　環境保全活動の推進
対象分野	1　地球温暖化防止
環境保全の目標	地球温暖化防止に向けて、日常の生活や事業活動を見直す。
行政の施策	①　町の事務事業からの温室効果ガスの排出削減 ②　町民や事業者の意識向上
取組事業名	①　地球温暖化対策実行計画（事務・事業編）の推進 ②　町民や事業者の意識向上
計画期間	①　通年 ②　通年
成果指標	①　温室効果ガスの削減（H28比） ②　広報周知回数
R7目標値	①　H28比　25%減少。 ②　1回
R7実績値 （年度末見込み）	①　令和6年度実績　H28比　8.23%減少。 ②　1回　※埼玉県の夏のエコライフキャンペーンに合わせ、省エネ・節電で地球温暖化防止を呼び掛ける町ホームページ記事掲載。
R8目標値	①　H28比　25%減少。 ②　2回
最終目標値	①　令和12年までに基準年（平成28年度）比50%（1，246t）以上CO2を削減。 ②　2回
実施・進捗状況評価	△：やや取組が遅れている
目標達成状況（%） R7実績値（年度末見込み）／R7目標値	①24%　4．3%／18% ②100%　1回／1回
目標達成度評価	△：目標を下回った（目標に対し80%未満）
課　題	・川島町地球温暖化対策実行計画（事務・事業編）の進捗管理を行い、目標達成に向けた取組をしっかり推進していく必要があるが、現状では目標達成に及ばない状況となっている。なお、節電などの取組については、一定程度で限界が生じるため、新たにハード面（LED化等）の取組の計画として町施設管理計画（ロードマップ）を策定中。なお、電気については、温室効果ガス排出係数による増減が大きく影響するため、使用量についてしっかりと削減する取組・施策を進めるほか、再生可能エネルギーで発電された電力会社へ契約変更することや庁舎内での節電取組の徹底など、地球温暖化対策実行計画推進会議等で提案・働きかけをしていく。
担当課	町民生活課（生活環境グループ）

施策取組状況確認シート	
基本方針	4　環境保全活動の推進
対象分野	1　地球温暖化防止
環境保全の目標	地球温暖化に防止に向けて、日常の生活や事業活動を見直す。
行政の施策	①　温室効果ガスの排出削減 ②　町民や事業者の意識向上
取組事業名	温室効果ガスの排出削減事業（学校への太陽光発電設備等の導入事業）
計画期間	①　毎年度実施（川島中学校については、2025年度以降、民間事業者を活用し設置予定） ※小中一貫教育校化に伴なう、川島中学校敷地に増設される低学年棟屋根に設置を予定
成果指標	①小中学校への太陽光発電設備及び蓄電池設置
R7目標値	①　87.5%（新規設置なしの現状どおり）
R7実績値 （年度末見込み）	①　87.5%（現状値） ※設置済：中山小、伊草小、西中、旧三保谷小、旧出丸小、旧八ツ保小、旧小見野 ※閉校となった4校を除くと60%（5校中3校設置済み、未設置は、つばさ小・川島中） ※蓄電池を設置している学校はなし
R8目標値	①　87.5%（新規設置なしの現状どおり）
最終目標値	①　100%
実施・進捗状況評価	◎：順調に実施・進行している。
目標達成状況（%） R7実績値（年度末見込み）／R7目標値	87.5%（8校中、川島中学校を除く7校に設置済み）（小学校統廃合前） 60.0%（閉校となった4校を除く5校中、つばさ小学校・川島中学校を除く3校に設置済み）
目標達成度評価	○：概ね達成した（目標に対して80%以上100%未満を達成）
課　題	太陽光発電設備の更新等は、全額町予算で対応する必要があり、財政的な負担が大きい。
担当課	教育総務課（学校教育グループ）

施策取組状況確認シート	
基本方針	4　環境保全活動の推進
対象分野	1　地球温暖化防止
環境保全の目標	地球温暖化防止に向けて、日常生活や事業活動を見直す。
行政の施策	①　町の事務事業からの温室効果ガスの排出削減
取組事業名	①－1　エコアップ推進活動（クールビズの励行・空調機器の適切な温度管理） ①－2　庁舎の太陽光発電設備の導入 ①－3　EV充電設備の設置
計画期間	①-1　随時実施 ①-2　平成27年11月末より稼働中 ①-3　令和8年度末まで
成果指標	①-1　随意実施しているものであり、目標設定になじまない ①-2　工事の完了 ①-3　町内施設9個所にEV充電器を設置
R7目標値	①－2　100% ①－3　100%
R7実績値 （年度末見込み）	①-3　100%（9施設設置完了）
R8目標値	①-3　100%（令和8年度設置予定なし）
最終目標値	①-2　100% ①-3　100%（設置完了）
実施・進捗状況評価	◎：順調に実施・進行している。
目標達成状況（%） R7実績値（年度末見込み）／R7目標値	100%
目標達成度評価	○：概ね達成した（目標に対して80%以上100%未満を達成）
課　題	①-1　空調設備の一律温度管理は、部署ごとに寒暖差があるので、執務環境を低下させないよう、状況を把握しながら進めていく必要がある。 ①-2　太陽光発電設備の導入状況を更に周知し環境教育等の啓発活動に結び付けていきたい。
担当課	政策推進課（管財・契約グループ）

施策取組状況確認シート	
基本方針	4　環境保全活動の推進
対象分野	2　省エネ・省資源
環境保全の目標	適切な支援施策により、家庭や事業所での効果的な省エネを推進する。
行政の施策	①省エネ・省資源の取り組み、省エネ機器の普及の推進 ②自動車利用に際しての省エネの推進
取組事業名	①-1　庁舎等公共施設への再生可能エネルギー（中水設備、地中熱利用設備の導入） ①-2　低燃費・低公害車（PHEV・ハイブリッド・EV等）の導入 ②-1　エコドライブの実施 ②-2　地域公共交通の導入
計画期間	①-2　令和7年度EV車導入済み ※他については通年実施
成果指標	①-1　工事の完了 ①-2　全公用車におけるPHEV車、ハイブリッド車等の割合 ②-1　安全運転購入等により繰り返し教育していくものであり、目標設定になじまない ②-2　地域の実情に合わせ、その都度見直していくものであり、目標設定になじまない
R7目標値	①-1　100% ①-2　14.00%（公用車49台中、6台のハイブリッド車、1台のEV車） ※今年度は導入予定なし
R7実績値 （年度末見込み）	①-1　平成27年11月末より稼働中 ①-2　公用車49台中、6台をハイブリッド車に更新済み ※トヨタ（プリウス、カムリ、カローラ）・ホンダ（フィット）・ニッサン（セレナ） スズキ（アルト） ※令和7年3月末にEV車（ニッサンサクラを1台導入済み（全体の14.00%） ※公用車1台削減（ダイハツロッキー）
R8目標値	①-1　100% ①-2　14.00%（7台） ※EV車、ハイブリッド車はリース料が普通車両と比較して、高額であるため、令和8年度は、導入の予定なし。しかし、環境に配慮することを目的として、公用車の台数を削減することを検討する。
最終目標値	①-1　100% ①-2　14.00%（7台）※令和8年度末
実施・進捗状況評価	○：概ね実施・進行している。
目標達成状況（%） R7実績値（年度末見込み）／R7目標値	100%
目標達成度評価	○：概ね達成した（目標に対して80%以上100%未満を達成）
課　題	①-1　導入状況を更に周知し、環境教育等の啓蒙活動に結び付けていきたい。 ①-2　EVの導入など環境に配慮した取り組みを率先して行っていく必要があるが、予算の制約を考慮する必要がある。 ②-1　特に運転技術が未熟なものへ教育を重点的に実施していく必要がある。 ②-2　持続可能な交通弱者支援策を検討する必要がある。
担当課	政策推進課（管財・契約グループ）

施策取組状況確認シート	
基本方針	4　環境保全活動の推進
対象分野	2　省エネ・省資源
環境保全の目標	適切な支援施策により、家庭や事業所での効果的な省エネを推進する。
行政の施策	①　省エネ・省資源の取り組み、省エネ機器の普及の推進
取組事業名	①　町民、事業者等への啓発
計画期間	①　通年
成果指標	①　省エネ等に関する広報実施回数
R7目標値	①　2回
R7実績値 （年度末見込み）	①　2回 ※埼玉県の夏と冬のエコライフキャンペーンに合わせ、省エネ・節電で地球温暖化防止を呼び掛ける町ホームページ記事掲載。
R8目標値	①　2回
最終目標値	①　継続的な広報・啓発に努め、町民の「地球温暖化対策」への満足度2.96以上を目標とする（2024年8月第6次川島町総合振興計画のための町民アンケート調査結果のテーマ平均点・なお、現状は2.95）。
実施・進捗状況評価	◎：順調に実施・進行している。
目標達成状況（%） R7実績値（年度末見込み）／R7目標値	①　100%
目標達成度評価	◎：目標以上に達成した（100%以上を達成）
課　題	①　継続的な広報・啓発に努めていくが、新たな取組が乏しいため、新規事業の創設など研究していく必要あり。
担当課	町民生活課（生活環境グループ）

施策取組状況確認シート	
基本方針	4　環境保全活動の推進
対象分野	3　環境教育・環境学習
環境保全の目標	環境教育・環境学習の推進により、町民や事業者の環境保全意識を高揚させる。
行政の施策	①　環境情報の提供の推進 ②　環境教育・環境学習の活発化
取組事業名	①、②　小学生を対象としてごみ処理施設見学会、田園環境の保全と農業の活用（みどりの学校ファームなどの農業体験事業を促進など、環境教育を推進する。）
計画期間	①　随時実施 ②　毎年度実施
成果指標	①、②　小学生を対象とした、ごみ処理施設見学会の実施、田園環境の保全と農業の活用（みどりの学校ファームなどの農業体験事業を促進し、環境教育を推進する。）機会を持つことができたか。
R7目標値	①、②　小学生を対象とした、ごみ処理施設見学会の実施、田園環境の保全と農業の活用（みどりの学校ファームなどの農業体験事業を促進し、環境教育を推進する。）機会として環境学習の実施。
R7実績値 （年度末見込み）	①　毎年度、小学生を対象とした、ごみ処理施設見学会の実施、川島町みどりの学校ファーム推進協議会を開催し、関係機関との情報交換を行った後、各校でそれぞれ農業体験を行い、環境教育の推進が図れた。 ②　毎年度、小学生を対象とした、ごみ処理施設見学会の実施、川島町みどりの学校ファーム推進協議会を開催し、関係機関との情報交換を行った後、各校でそれぞれ農業体験を行い、環境教育の推進が図れた。
R8目標値	①、②　小学生を対象とした、ごみ処理施設見学会の実施、田園環境の保全と農業の活用（みどりの学校ファームなどの農業体験事業を促進し、環境教育を推進する。）機会として環境学習の実施。
最終目標値	①、②　小学生を対象とした、ごみ処理施設見学会の実施、田園環境の保全と農業の活用（みどりの学校ファームなどの農業体験事業を促進し、環境教育を推進する。）機会として、継続的に環境学習の実施していく。
実施・進捗状況評価	○：概ね実施・進行している。
目標達成状況（%） R7実績値（年度末見込み）／R7目標値	①、②　小学生を対象とした、ごみ処理施設見学会の実施、田園環境の保全と農業の活用（みどりの学校ファームなどの農業体験事業を促進し、環境教育を推進する。）機会として、継続的に環境学習の実施した。
目標達成度評価	○：概ね達成した（目標に対して80%以上100%未満を達成）
課　題	環境教育・環境学習の授業時間の確保。
担当課	教育総務課（学校教育グループ）

施策取組状況確認シート	
基本方針	4　環境保全活動の推進
対象分野	3　環境教育・環境学習
環境保全の目標	環境教育・環境学習の推進により、自然環境保全に向けた意識を高める。
行政の施策	①環境情報の提供の推進 ②環境教育・環境学習の活発化
取組事業名	①地域子ども教室（1箇所で実施） ②自然体験教室
計画期間	①平成18年度から実施中 ②平成26年度から実施中
成果指標	①各地区の体験活動における環境学習の導入件数 ②事業の実施及び参加者数
R7目標値	①「自然体験、環境学習」を主題とした活動を実施する。 実施例：「川の博物館見学」（つばさっ子くらぶ） ②「環境学習」を主題とした講座を実施し、参加者数20名を目指す。
R7実績値 （年度末見込み）	①「川の博物館見学」（つばさっ子くらぶ）を実施した。 ②「夜の林探検」、「それゆけ荒川探検隊」（生涯学習講座）を実施（参加者数：計36名）
R8目標値	①いずれかの教室において1回以上の自然体験、環境を考える教室を実施する。 ②「環境学習」を主題とした講座を実施し、参加者数を増やす。 （生涯学習講座：20名）
最終目標値	①いずれかの教室において「自然体験、環境学習」を主題とした活動を年間1回程度実施する。 ②講座参加者数20名を目標とする。（生涯学習講座）
実施・進捗状況評価	◎：順調に実施・進行している。
目標達成状況（%） R7実績値（年度末見込み）／R7目標値	①100%／100% ②100%／100%
目標達成度評価	◎：目標以上に達成した（100%以上を達成）
課　題	①今後も当該活動を増やしていくとともに、既存の活動の中で環境問題にふれることができるように工夫したい。 ②天候によって実施が左右される。自然環境の保全という趣旨だけでは参加者の興味・関心を得ることが難しい。自身が住んでいる地元の自然環境に興味を持たせる工夫が必要である。
担当課	生涯学習課

施策取組状況確認シート	
基本方針	4　環境保全活動の推進
対象分野	4　環境保全活動
環境保全の目標	地域が一体となった環境保全活動の推進により、『良好な地域社会が良好な地域環境をつくり、良好な地域環境が良好な地域社会をつくる』という環境と社会の好循環を形成する。
行政の施策	①　自発的な環境保全の取り組みの推進 ②　連携・協力による環境保全の取り組みの推進
取組事業名	①　エコアクション21認証取得に向けた認証・登録研修会開催 （川越市・狭山市・上尾市・富士見市・坂戸市・日高市・川島町の共同事業） ※エコアクション21は、事業者の環境への取り組みを促進するとともに、その取り組みを効果的・効率的に実施するため、ISO14001規格を参考としつつ、中小企業にとっても取り組みやすい環境経営システムの在り方を規定したもの。この環境経営システムを構築、運用、維持することにより、環境への取り組みの推進だけでなく、経費の削減や生産性の向上等、経営面でも効果あり。共同事業とすることで、3社以上の参加事業者確保が必要となるが、研修会費用（全5回・15万円）が無料になるなどのメリットがある。
計画期間	①　年間全5回の研修会を予定。
成果指標	①　エコアクション21認証登録件数
R7目標値	①　町内1事業者以上の認証登録。
R7実績値 （年度末見込み）	①　町内事業者0件 川越市、狭山市、上尾市、日高市、富士見市、坂戸市と合同で研修会を開催（10月～2月）
R8目標値	①　町内1事業所以上の登録申請
最終目標値	①　3団体
実施・進捗状況評価	△：やや取組が遅れている
目標達成状況（%） R7実績値（年度末見込み）／R7目標値	①　0%
目標達成度評価	△：目標を下回った（目標に対し80%未満）
課　題	①　町HPで周知しているが、町内企業の参加はないため、継続的な周知が必要。
担当課	町民生活課（生活環境グループ）

施策取組状況確認シート	
基本方針	4　環境保全活動の推進
対象分野	4　環境保全活動
環境保全の目標	地域が一体となった環境保全活動の推進により、『良好な地域社会が良好な地域環境をつくり、良好な地域環境が良好な地域社会をつくる』という環境と社会の好循環を形成する
行政の施策	①　自発的な環境保全の取り組みの推進 ②　連携・協力による環境保全の取り組みの推進
取組事業名	②　さくら猫無料不妊手術事業　※R4.4.1から事業開始 （公益財団法人どうぶつ基金が実施する事業への参加：飼い主のいない猫の不妊・去勢手術を受けさせるため、申請者は基金が発行する無料チケットを町へ申請し、指定協力動物病院にて手術を受けた後、元居た場所へ戻す。飼い主のいない猫が増えないようにし、生活環境への被害を抑制する。）
計画期間	②　通年
成果指標	②　さくら猫無料チケット利用手術頭数
R7目標値	②　10頭
R7実績値 （年度末見込み）	②　54頭
R8目標値	②　30頭
最終目標値	②　20頭 ※飼い主のいない猫による、フン、おしっこ被害ゼロ、殺処分ゼロを目指し、さくら猫事業を普及させていく。
実施・進捗状況評価	◎：順調に実施・進行している。
目標達成状況（%） R7実績値（年度末見込み）／R7目標値	②　100%
目標達成度評価	◎：目標以上に達成した（100%以上を達成）
課　題	②　飼い主のいない猫に関する苦情（フン尿の被害等）は、依然として寄せられているため、地域住民との連携により、本事業を推進させていく。 なお、R5年度は、20頭以上に増えてしまった案件など、個別の相談が多くあり、その対応をしたため実績値が多くなった（R5 54頭）が、実際の需要は予測しづらい。
担当課	町民生活課（生活環境グループ）